

武庫ネイチャークラブ自主行事

源泉かけ流し温泉、熊野本宮大社、玉置神社、 賀名生梅林、福寿草の自生地へ行こう！

実施日：H25年3月6日（水）～7日（木）

行程：

- 1日目 大阪駅8時10分出発－阪和道・三原JCT－南阪奈・葛城IC－五条－賀名生梅（昼食）－福寿草自生地－谷瀬の吊り橋－ホテル昴16時過ぎ到着。野猿はすぐ。夕食18時～19：30 懇親会合20時～21時
- 2日目 8時ホテル昴出発－熊野本宮大社－玉置神社（昼食）－道の駅吉野路大塔－五条－大阪駅18：10着

参加者 会員6名 会員外14名 計20名

H23年秋の風水害で大きな被害の出た後、観光面でなかなか活気が戻らない、ということで奈良県が補助を出す制度を利用して現地を訪れることにしました。行くからにはMNCの我々です。福寿草の自生地、玉置神社周辺の3000年の杉の巨木群などを是非見たいと思いました。急な計画でしたので参加者が集まらず、シニア関係の知人たちに呼びかけて参加して頂きました。

3月6日8時10分大阪を出発。賀名生梅林は北曾木丘陵を覆い尽くすように2万本の梅が雲海のように花を咲かせるそうですが、今は固い蕾のまま。近くの五新線跡の道沿いにある紅梅からは甘い香りが漂っていました。バスは道幅が狭く曲がった道を慎重に運転してもらい福寿草の自生地へ！ここは民有地のためあまり宣伝はしていませんが、大規模な群生地は奈良県の天然記念物になっています。雲1つない青空で、陽に向かって一斉に顔を上げている花々は何千個、いや何万個！風がなく陽だまりは春！お弁当を食べて折り返します。梅干加工している地主さんで梅干を購入。蕾を一杯つけた椿の枝を脚立に乗って切って下さり、お土産に頂く。ピンクの花が今部屋を飾っている。



S谷瀬の吊り橋はS29年に高さ54m長さ297mの生活用に架けられた鉄線の吊り橋で、周囲の山々が織りなす眺望や渡る際に味わえるスリル感が話題を呼んでいるが誰も歩いていない。数人が前を歩くと揺れる。怖いから手を繋ぐとお互いの体の動きでまた揺れる。3～4人は渡らずに皆の帰りを待つ事とする。



ここから宿泊地に向かうが、車窓からは土砂崩れの跡があちこちで見られる。山頂から川に向かって帯になって崩れている所など現地で見ないとその凄さは解らない。

ホテル敷地内にある十津川村特有の野猿「人力ロープウエー」に乗るがロープを手繰り寄せないと前に進めない。岸にいる友に「ロープ引っ張って！」と助けを求める。温泉に入り夕食。会席とぼたん鍋に分かれるがお互いに「シカ肉おいしいよ～」「ぼたん鍋おいしいよ～」と賑やかなこと。食後1時間ほど会合??をして温泉に入りおやすみなさい。。。。



7日8時にホテルを出発して熊野本宮大社へ。以前、大斎原（おおゆのはら）にあった社殿は水害に遭い現在地に遷宮されて120年を迎える。大斎原には日本一大きな鳥居があり、静けさの中に小鳥の音が響いていた。本宮大社はやはり厳かで格式のある佇まいである。古くから人々の熱い信仰に支えられた古式ゆかしい雰囲気漂わせる聖地には、身分や階級を問わない多くの人々が熊野に

あこがれ、救いを求め、甦りを願って異郷とも思える山深いこの地を目指したことが領けられる。



熊野三山の奥の院と言われる玉置神社に向かう。役の行者や空海も立ち寄った聖地といわれ、紀元前37年に創建された、標高千m付近に鎮座する神社である。もちろん世界遺産であり、社務所、台所は国の重要文化財。境内一円の巨杉群は神代杉、常立杉、磐余杉（いわれすぎ）夫婦杉、大杉など3000年といわれる老樹大樹が杜をつくり、その懐に抱かれるように社殿が鎮座している。その中に身をゆだね、自然の中での人間の愚かさ、小ささを実感せずにはいられない。そっと幹に手を当てると不思議な気持ちになる。そして樹勢のたくましさと英気を頂く。



途中柿の葉寿司を購入して、無事18時すぎに帰阪する。

行く先々でお土産を買って地域に貢献してくださった方が多く、充実した2日間を過ごす事が出来ました。ご参加の皆様有難うございました。

記録 今西 朋子